

[成果情報名] 中輪、桃花、一重咲きの鉢物用マーガレット新品種「伊豆 32 号」

[要 約] 交雑育種法により、中輪タイプ、桃花で色あせにくく一重咲きの鉢物用新品種「伊豆 32 号」を育成した。本品種は、年内から開花し、草姿がコンパクトで、現地の適応性も高いことから、鉢物用品種として有望である。

[キーワード] 鉢物、マーガレット、新品種、交配育種

[担 当] 静岡農林技研・伊豆農業研究センター

[連絡先] 電話 0557-95-2341、電子メール agriizu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 花き

[分 類] 技術・普及

[背景・ねらい]

鉢物用マーガレットは静岡県東部地域の鉢物主力品種として生産されている。一方で、多彩な花色や特徴ある花型で年内から開花する新たな特性を持った品種の育成が求められている。このため、交雑育種により既存の品種にはない特性を持った鉢物用マーガレット新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

- 1 育成経過：2008 年に静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター南伊豆ほ場において、育成系統「06-34-2」の自然交雑実生を播種して得られた 43 個体から 2 個体を優良個体として選抜した。選抜個体を系統とし、所内および現地ほ場で生育および開花特性に注目して選抜を行った。その結果、花色が桃色で一重咲きの「08-23-1」は鉢物品種として有望性が認められたため、育成系統候補「伊豆 32 号」とした（図 1）。
- 2 生育特性：「伊豆 32 号」は、中輪タイプの一重咲きの桃花である（表 1）。開花後の花色の色あせが起こりにくく、観賞期間が長い。また高温期においても舌状花卉の発色が良好である。年内から開花し、開花時の草姿がコンパクトで鉢物用に向く（図 2）。
- 3 現地適応性：「伊豆 32 号」は、鉢物向けの草姿で、年内から開花したことから年内出荷が可能な鉢物用品種として評価された（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 種苗法による品種登録を出願予定であり、栽培にあたっては静岡県との許諾契約が必要である。

[具体的データ]

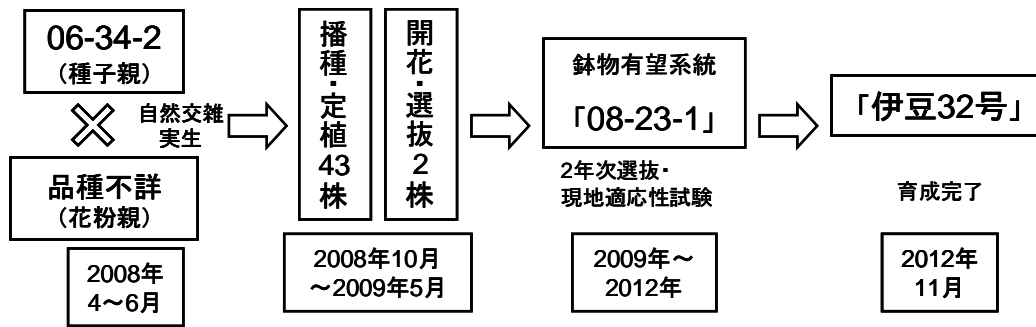


図1 マーガレット「伊豆32号」の育成経過

表1 「伊豆32号」の生育開花特性(所内試験、地床栽培)¹⁾²⁾

系統名	草型	草丈	開花開始	花色		花径	花型	葉の形質		
				舌状花	管状花			葉色 ³⁾	葉の欠刻	葉縁の鋸歯
伊豆32号	丸	中	12月上	桃	黄	中	一重	灰緑	中	鈍
サンデーリップル ⁴⁾	開張	中	9月上	白	黄	小	一重	淡緑	深	深鋭

- 1) 生育特性はマーガレット審査基準により栽培期間中に観察調査を行った。
- 2) 挿し芽: 2009年6月3日、定植: 7月2日、摘心: 8月4日
- 3) 葉色は‘在来白’の葉色を基準として判定した。
- 4) 対照品種

表2 「伊豆32号」の生育開花特性および栽培担当者の評価(現地試験、ポット栽培)¹⁾²⁾

品種・系統名	草丈	開花開始	花径	花色	花型	現地生産者 ³⁾ の評価
伊豆32号	中	10月下	中	桃	一重	花色が良く、開花が早い(Z、Y、X、W、V)
サンデーリップル ⁴⁾	低	9月下	小	白	一重	
キューティーミス ⁴⁾	低	10月中	小	桃	丁字	

- 1) 生育特性はマーガレット特性審査基準に従って観察調査を行った。
- 2) 挿し芽: 2011年6月23日、鉢上げ: 7月12日、生産者引渡し7月27日、以降は現地慣行の作型で栽培した。
- 3) 沼津市(Z)、伊豆の国市(Y)、三島市(X、W)、富士宮市(V)
- 4) 対照品種



図2 「伊豆32号」の開花時の草姿

[その他]

研究課題名: マーガレット等伊豆特産花きの育成と生育特性の解明

予算区分: 県単

研究期間: 2011~2015年度

研究担当者: 稲葉善太郎、武藤貴大、岩崎勇次郎